



NEWS RELEASE

糸賀一雄生誕100年記念事業 報道資料

Vol.5 2013年12月6日発行

1/6 ページ

第17回 糸賀一雄記念賞 および 平成25年度 糸賀一雄記念しが未来賞 の受賞者が決定

～授賞式は平成26年3月30日の糸賀一雄生誕100年記念式典で行います～

公益財団法人糸賀一雄記念財団では、障害者の基本的人権の尊重を基本に、生涯を通じて障害者福祉の向上に取り組まれた故糸賀一雄氏の心を受け継ぎ、障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的として、次代を支える有為な人材の発掘・育成・奨励のための事業を行っています。

平成9年に創設した「糸賀一雄記念賞」も今回で第17回目を迎え、2名（個人1、団体1）の受賞者を決定しました。

また、障害者福祉に関する取組が先進的で、今後一層の活躍が期待される個人および団体を顕彰する今年度の「糸賀一雄記念しが未来賞」は、滋賀県で活動する2団体に決定しました。

なお、今年度の授賞式は、平成26年3月30日（日）に開催される糸賀一雄生誕100年記念式典で行います。

1. 「第17回 糸賀一雄記念賞」について

- 候補者の資格 日本に居住し、障害者福祉に関する活動実績が高く評価されており、かつ、今後の一層の活躍が期待される個人および団体
- 募集期間 平成25年6月25日～9月30日
- 表彰 受賞者(1名、1団体)に賞状および副賞50万円を授与
- 選考方法 今回の応募者(10名。内団体5)と前3回までの応募者を含め、総数26名(個人15、団体11)の中から選考委員会が選考し、理事会の議決を得て決定
- 選考委員会および理事会開催日
選考委員会：平成25年11月8日 理事会：平成25年12月2日
- 受賞者（プロフィールは本資料3～4ページを参照ください）

◆島田 司巳 氏（しまだ もりみ）

〔滋賀県立むれやま荘総合施設長・滋賀県・79歳・男性〕

◆社会福祉法人あさみどりの会

〔理事長 島崎 春樹 氏（しまざき はるき）・愛知県〕

2. 「平成25年度 糸賀一雄記念しが未来賞」について

- (1) 候補者の資格 障害者福祉に関する取組が先進的で、今後の一層の活躍が期待される個人および団体（ただし、滋賀県内で取組が実践されているものに限る）
- (2) 募集期間 平成25年6月25日～9月30日
- (3) 表彰 受賞者(2団体)に賞状および副賞10万円を授与
- (4) 選考方法 今回の応募者(3名。うち団体3)と前回からの応募者を含め、総数11名(個人4、団体7)の中から選考委員会が選考し、理事会の議決を得て決定

- (5) 選考委員会および理事会開催日

選考委員会：平成25年11月8日 理事会：平成25年12月2日

- (6) 受賞者（プロフィールは本資料5～6ページを参照ください）

◆Kids Loco Project〔キッズ ロコ プロジェクト、滋賀県草津市〕

共同代表 高塩 純一 氏（たかしお じゅんいち、びわこ学園医療福祉センター草津 課長）
安田 寿彦 氏（やすだ としひこ、滋賀県立大学工学部教授）

◆FC滋賀〔エフシー しが、滋賀県甲賀市〕

代表 中村 日出海 氏（なかむら ひでうみ）

3. 授賞式

日 時：平成26年3月30日（日） 10:00～

場 所：栗東芸術文化会館 さくら 大ホール

内 容：賞状および副賞の授与、受賞者による活動報告

4. 選考委員（敬称略）

| | | |
|----|-------|------------------------------|
| 委員 | 秋山 愛子 | 国連アジア太平洋経済社会委員会社会開発部 社会問題担当官 |
| 委員 | 有馬 正高 | 東京都立東部療育センター 院長 |
| 委員 | 江草 安彦 | (社福)旭川荘 名誉理事長 |
| 委員 | 川井 一心 | (社福)全国社会福祉協議会 常務理事 |
| 委員 | 京極 高宣 | (社福)浴風会 理事長 |
| 委員 | 徳川 輝尚 | (社福)京都太陽の園 副理事長 |
| 委員 | 西嶋 栄治 | 滋賀県副知事 |
| 委員 | 吉武 民樹 | 川村学園女子大学 生活創造学部長 |

本リリースに関するお問合せ

公益財団法人糸賀一雄記念財団 担当：山口（やまぐち）

<糸賀一雄記念財団事務局> 〒520-3111 滋賀県湖南市東寺4丁目1-1

TEL: 0748-77-0357 (平日 9:00～17:00) FAX: 0748-77-0358 E-mail: itoga@itogazaidan.jp

糸賀一雄生誕100年記念事業実行委員会 担当：中西（なかにし）

<実行委員会事務局> 〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL: 077-528-3542 (平日 9:00～17:00) FAX: 077-528-4853 E-mail: nakanishi-isao@pref.shiga.lg.jp

※ 本リリースの写真等素材一式は、下記 WEB ページからダウンロードしていただくことができます。

http://100.itogazaidan.jp/wp-content/uploads/pr_press131206.zip (ID: itoga100 パスワード: 0358)

◎ 授賞者プロフィール

【第17回 糸賀一雄記念賞 受賞者】 島田 司巳 氏 (しまだ もりみ)

滋賀県立むれやま荘総合施設長



■ 略歴

- ・昭和41年 京都市立医科大学大学院卒業（医学博士）
- ・昭和45年 舞鶴赤十字病院小児科部長
- ・昭和46年 京都市立医科大学小児科講師
- ・昭和50年 滋賀医科大学小児科助教授
- ・昭和53年 滋賀医科大学小児科教授
- ・平成12年 同大学名誉教授
- ・平成12年 滋賀県立むれやま荘所長
- ・平成23年 同むれやま荘総合施設長

■ 主な活動実績（推薦書より）

- ・ 滋賀医科大学赴任後間もなく、第一びわこ学園（当時）で医療の一端を支援する中、重複障害児や重症心身障害児のことは小児科臨床研修の中で経験しなければならない必修分野であることを強く印象付けられる。小児科に第一期卒業生を迎えるのを機に、初期臨床研修期間内の3～4ヶ月間を、県内の重症心身障害児3施設の何れかにおいて研修することを制度化し、以後、約20年継続して実施。これは今日の障害児者医療や福祉行政をライフワークにする人材の育成となり、県下の重症心身障害児施設の医師不足の長期的な緩和、施設の医療・療育の向上に繋がっている。
- ・ 滋賀県立むれやま荘では、脳血管障害などにより、急性期医療と急性期リハビリテーション（以下、リハビリ）等を終えた中途障害者の方々の自立度を高め、より豊かに社会参加していただくためには、障害を治すことを主目的とした医療的リハビリではなく、残された機能を高め、社会資源、福祉用具や制度などを活用して訓練する社会リハビリがより重要と認識し、I C F（国際生活機能分類）の概念を取り入れた社会リハビリを実践、主導してきた。
- ・ 高次脳機能障害については、支援の実践面では未だ多くの課題は残る。むれやま荘では、当事者、家族や有志を中心とした脳外傷友の会「しが」の研修事業などに積極的に支援・協力するとともに、併置された滋賀県高次脳機能支援センターと連携して支援を行ってきた。また、支援方法が十分確立されておらず、障害の特性から生活支援面で多くの困難を伴うため、全国的に受入れ施設は少ないが、むれやま荘での受け入れを積極的に主導し、職員の研修を重ねながら支援に取り組んできた。

■ 今後の展望等（推薦書より）

- ・ 医療リハビリ（急性期及び回復期リハビリ）で成果の得られなかった障害者には社会モデル的支援がより重要である。その役割の主要な担い手は福祉関係者で、医療者はその協力者であることを理解して頂くことが、医療と福祉の正常な連携を可能とする最初のステップだと考えている。
- ・ I C Fの視点に立った社会リハビリは自らも研鑽を重ね、実践と啓発・普及活動を継続したい。
- ・ 高次脳機能障害者への支援体制等は一步でも前進させるよう、むれやま荘等との連携を図りながら、支援対策検討や地域支援体制の整備に取り組みたい。
- ・ 重症心身障害児者支援については、設置母体の枠を越えた更なる有機的な連携が前進するようモラルサポートを続けるとともに、重症心身障害児者が安心して在宅医療が受けられる体制整備がされるよう微力ながら協力したい。

※ 本リリースの写真等素材一式は、下記 WEB ページからダウンロードしていただくことができます。
http://100.itogazaidan.jp/wp-content/uploads/pr_press131206.zip (ID : itoga100 パスワード : 0358)

【第17回 糸賀一雄記念賞 受賞者】 社会福祉法人あさみどりの会〔愛知県〕

■ 略歴

- 昭和32年、子どもの教育問題に取り組んでいた数人の有志が、心身に障害のある子どもたちと出会い、障害児(者)問題を中心に活動を開始する。
- 昭和43年、社団法人あさみどりの会設立、ボランティア療育援助研修会を開始(受講者延べ4,025人)。
- 昭和47年、社会福祉法人あさみどりの会設立。同時に障害児通園施設「さわらび園」を開設。翌年、家庭療育援助活動を開始し、在宅障害児の家庭へボランティアを派遣。
- 昭和52年、「ボランティアセンター」と「療育相談所」を開設。
- 以後、通所授産施設「わらび福祉園」(昭和57年)、同「レインボーワークス」(平成14年)、グループホーム「わらび第1ホーム」(平成元年。現在までに16か所)、入所更生施設・通所授産施設「べにしだの家」(平成7年)、ヘルパーステーション2か所(平成17年)を開設。



■ 主な活動実績 (推薦書より)

- 数人の有志による障害児(者)問題について活動を始めた頃、障害児(者)のことが全く社会に知られていないことを知り、社会の理解を深めるために、主旨に共感した有志からの寄付金を元に記録映画の作成と上映、講演会やシンポジウムの開催、出版活動等の啓発活動を展開してきた。
- 活動を進める中、重い障害児(者)を抱え、公的支援を受けられずに困っている多くの人たちを前にして、行政施策の欠陥を補うためにボランティアを養成し、在宅障害児(者)の家庭を訪問して支援する「家庭療育援助活動」を実施。また、「障害幼児の集団療育」をボランティアの支援で実施。
- 障害児支援の目標は、障害のある人も家族も生涯を通じて幸せになっていただくことであり、乳幼児期から出会う子どもの発達支援と併行して、母親や父親の支援も行っている。
- 法人の事業所利用者の保護者や職員等の互助機能、ボランティアや地域市民の支援もあり、障害のある人をめぐる信頼関係で繋がっている“ゆるやかな共同体”的支援の輪の中で、障害のある人もない人も“共に良い人生を送れる社会づくり”を目指している。
- 保護者と施設が密接に連携し、利用者に力をつけて施設から送り出すことを目的として、入所更生施設「べにしだの家」(18年間に30人中25人を地域へ移行)を運営してきた。

■ 今後の展望等 (推薦書より)

- 法人の障害児者福祉事業の中心課題は、幼児期から成人期まで一貫した療育と家族(保護者)支援を行い、障害のある人が成人してから生きづらくなならないよう予防し、障害のある人が生涯にわたって地域で当たり前の暮らしができるよう、発達支援と環境整備のモデルの確立を目標に取り組んでいくことである。
- 法人の今後の最大の課題は、創立以来の先達から受け継がれてきた糸賀思想をベースとした「あさみどりの心」つまり「ボランティアの心」を、しっかり役員集団及び協力者に継承し、パイオニア精神のもとに常に社会に発信し続ける「福祉運動団体」としての姿勢を維持することにある。

※ 本リリースの写真等素材一式は、下記 WEB ページからダウンロードしていただくことができます。

http://100.itogazaidan.jp/wp-content/uploads/pr_press131206.zip (ID : itoga100 パスワード : 0358)

【平成25年度 糸賀一雄記念しが未来賞 受賞者】

キッズ ロコ プロジェクト

Kids Loco Project 〔滋賀県草津市〕



■プロフィール

- 平成19年にびわこ学園医療福祉センター草津職員と滋賀県立大学工学部システム工学科職員等で構成された団
体で、身体に不自由を持つ子どもたちに適した移動機器（電動車いす）の開発チーム。この開発によって、多
くの子どもと家族の笑顔を引き出し、子どもたちの主体性や有能性、肯定感を育むことを行ってきた。

■主な活動実績（推薦書より）

- 赤ちゃんは世界を探検する存在であり、探検（探索行動）による発見は、脳に多大な報酬をもたらし、次の探
検への基盤になる。しかし、身体に不自由のある子どもたちは、自らの行動によって環境に働きかけることが
できない。Butlerは20~36カ月の乳児であっても電動移動機器を用いての移動は可能であると報告している。
主体的に動くことにより自立度は高まり、無力感の軽減、社会性や情緒、認知発達の機会が促されることもわ
かってきた。
- 平成16年、幼少期の移動経験を実現するため、様々な姿勢で乗ることが可能なMultilocomotorとPCSS（体重
の免荷と姿勢制御をサポートするための機器）を研究開発した。
- 姿勢制御機器・移動機器を利用する中で、子どもたちは環境に対して積極的に探索を始め、運動障害の変化よ
りも早く人との関係性が豊かに育まれていく様を目の当たりにした。
- 平成19年、滋賀県立大学工学部システム工学科と更なる機器開発と支援方法を確立するため、新たなプロジェ
クトとしてKids Loco Projectを開始。
- 平成20年、三菱財団より、「重度脳性まひ児に対し早期移動経験を行うことで育まれる、認知・社会面の発達
を通し、新たな援助・支援方法を研究する」で助成金を得た。本研究の成果は、平成20年日本赤ちゃん学会自
主シンポジウム、平成23年リハビリテーション工学カンファレンスで発表、平成24年のリハビリテーション・
エンジニアリングに「幼少期に電動移動遊具を与えることで起きる変化」を投稿した。
- 平成24年、（公財）ダイトロン福祉財団第11回障害者福祉助成金を得て開発したKids Loco 2台を購入し、貸
し出しを行っている。

■今後の展望等（推薦書より）

- 身体に不自由のある子どもたちも、自らの行動で世界を探検することにより、健全な心身が育まれる。
- 我が国では、電動移動機器が給付される年齢は欧米の3歳に比べ10歳と7年も遅れている。その理由は、「幼児
は大人の言うことに従えない、機器の操作を行うためには一定の安全への配慮が出来る知的な能力が必要」な
どが言われているが根拠に欠ける。スエーデンの研究では生後3カ月10日の乳児が電動車いすを操作した事
例や7カ月の障害児が電動車いす操作を練習することで、認知・社会性の発達が同年齢の健常児より上回った
という報告もある。これは障害児に対する考え方の違いで、文化の差としか言いようがない。
- 当プロジェクトでは、幼児期から安全に乗ることが出来る移動機器を開発し、提供することで我が国の文化を
変えていくことを目指している。子どもたちの笑顔を引き出しながら身体に不自由のある子どもと家族が、主
体的に社会とかかわれる役割の一つとして今後とも活動を続けていく。

※ 本リリースの写真等素材一式は、下記 WEB ページからダウンロードしていただくことができます。

http://100.itogazaidan.jp/wp-content/uploads/pr_press131206.zip (ID : itoga100 パスワード : 0358)

【平成25年度 糸賀一雄記念しが未来賞 受賞者】 エフシー しが **F C滋賀〔滋賀県甲賀市〕**

■プロフィール

- 平成6年 信楽学園、通勤寮利用者が余暇活動の一つとして、サッカーを始める。
- 平成8年 「F C信楽」を立ち上げる。
ゆうあいピック北海道大会出場3位
- 平成12年 ゆうあいピック岐阜大会出場優勝
- 平成13年 第1回全国障害者スポーツ大会（宮城県）出場
- 平成15年 日韓親善サッカー日本代表チームに、選手5名とコーチ1名が選出される。
- 平成20年 チーム名を「F C甲賀」に改称
- 平成23年 滋賀県全域から参加してもらうため、チーム名を「F C滋賀」に改称

■主な活動実績（推薦書より）

- ・ F C滋賀は、知的障がいのある人たち（当事者）により、自主的な運営が行われているサッカーのクラブである。
- ・ クラブ員の多くは、自分たちが働いて得た給料で道具を購入し、練習に参加することによって、クラブを通じた仲間づくりを行っている。彼らにとって余暇の充実は仕事への張り合いとなり、生きる糧ともなっている。また、サッカーを通じて、地域のチームとの交流を図り、障がいに対する理解を進めている。
- ・ F C滋賀はサッカーチームとしてだけでなく、サッカーの練習日や練習のない日には仲間として集い、仕事や生活の悩みを相談し合っている。住んでいる地域、所属先や年齢は違えども、周囲にはサッカーを通じた友人がおり、そのことが地域の中で孤立しないようにもなっている。
- ・ クラブの後輩たちは、先輩の「就職し、給与を得てスパイクを買う」、「グループホームやアパートに住む」、「免許を取り車を買う」等々の姿を良きモデルとして、自分の生きる道を考えていくきっかけになっており、先輩たちは、後輩に恥ずかしくないようにとピッチ（グラウンド）外の職場や地域において、後輩たちに社会人としての振る舞い方を見せるなど、相互に良い影響を与えている。

■今後の展望等（推薦書より）

- ・ F C滋賀では、今後も地域のクラブチームとの試合を増やし、地域交流とレベルアップを目指すことにしている。
- ・ 施設利用者が施設の中だけで活動するのではなく、施設が地域に開放され、施設関係者や障がい者自らが、地域に入っていき取り組みが重要と考えている。
- ・ 障がいのある人たちは、地域で働き暮らし、遊び、余暇も施設の外へと、地域に出て参加していくことを大切にしている。
- ・ ピッチ（グラウンド）の中の主人公は、障がいのある選手自身であり、それぞれの個性を生かしたチームづくりを、当事者の話し合いの中で決めていくことを今後とも大切にしていきたい。